

ナンバリング	授業科目名 (科目の英文名)	区分
M212X301	看護研究方法論 (Introduction to Nursing Research)	専門教育科目 看護研究

必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	1	3	前	金・2	三重野英子、脇幸子、末弘理恵、小野光美、佐藤祐貴子、岩本祐一 内線：5093 E-mail：eikomi@oita-u.ac.jp

【授業の概要・到達目標】

看護学における研究の目的、意義を考え、さまざまな視点からリサーチクエスチョンをたてる能力を養うとともに、研究デザインや目的、方法、倫理的配慮、結果、考察に至る一連の研究プロセスを学ぶ。また、文献を読み、クリティークする能力を養う。

具体的な到達目標	看護学科ディプロマポリシーとの対応						
	1	2	3	4	5	6	7
1. 看護学における研究の目的、意義を説明する。			○		○	○	
2. 研究方法の種類とそのプロセスを説明する。			○				
3. 目的から考察・結論にいたるまでの論理の一貫性を具体的に説明する。		○	○	○			
4. 論文の検索・クリティークを適切に行う。						○	

【授業の内容】

No.	主テーマ	研究の楽しさ
1	看護研究とは (看護研究の動向を含む)	毎回、担当教員が研究の楽しさを語る ・ 教員の研究 ・ 学生の研究 ・ 大学院生の研究 ・ 共同研究 ・ 学会活動 等
2	看護研究の始め方～リサーチクエスチョンをたてる	
3	情報の探索と吟味～文献レビューとその方法	
4	研究における倫理的配慮	
5	研究方法1：実験研究・準実験研究	
6	研究方法2：質的研究	
7	研究方法3：調査研究	
8	研究方法4：文献研究・実践報告	
9	研究方法5：事例報告(ケースレポート)と事例研究(ケーススタディ)	
10	研究計画書の作成・研究成果の発表	
11	医学研究の動向	
12-15	文献クリティーク演習、看護研究オリエンテーション	

【アクティブラーニングの内容・その他の工夫】

A：知識の定着・確認	○	学修記録で振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 各回の授業で学んだ事やその意義を考える時間を設ける。 学んだ知識を応用する訓練を通じて、使える知識とする。
B：意見の表現・交換	○	講義中に意見を求める。	
C：応用志向	○	文献検索に慣れる。グループワークを課す。	
D：知識の活用・創造			

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	事前に教科書を読み予習する。文献検索・クリティークの準備を行う。(1h)
事後学修	教科書と授業資料をもとに復習する。文献検索・クリティークの記録を重ね、レポート執筆に備える。(2h)

【教科書】坂下玲子他：系統看護学講座 別巻 看護研究 第2版, 医学書院, 2023

【参考書】随時授業の中で紹介する。

【成績評価方法及び評価の割合】

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4
課題レポート (文献検索・クリティーク)	50%				○
期末テスト	50%	○	○	○	○

【注意事項】1年次の看護学探究入門の授業資料やチーム演習の資料をファイリングし、参考資料とする。

【備考】

担当教員の実務経験の有無	○	
教員の実務経験		三重野英子（看護師）、脇幸子（看護師）、末弘理恵（看護師）、小野光美（看護師、保健師）、佐藤祐貴子（看護師、保健師）、岩本祐一（看護師、保健師）
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	×	
教員以外の指導に関わる実務経験者		
実務経験をいかした教育内容		保健師、看護師としての経験から看護の課題を抽出し、研究の方法や進め方、結果の解釈および考察の仕方の基礎についての学修を支援する。
授業形態		面接授業